

# 一緒に夢を語ろう

My Dream



やまぐち たか ふみ  
**山口 剛郁** さん  
(豊岡小 6年)

**ぼくの夢は、**  
『記者』

外国では、水が不足していて、汚い水を飲んでいるのをテレビで見た。でも、ボランティアの人たちが井戸を掘って、きれいな水を提供していた。それからぼくは、人助けをしたいと思うようになった。そして、自分たちだけが幸せではいけないと思うようになった。一人では小さな力だけど、記者になって、助けを必要としている国々へ行き、たくさんの人に呼びかけたい。



あさ の み  
**浅野 なつ美** さん  
(豊岡小 6年)

**わたしの夢は、**  
『パティシエ』

小学4年生のとき、おじいちゃんとおばあちゃんの誕生日に初めてケーキを作りました。そのときとても喜んで「おいしい！」ってほめてくれました。将来は自分の家を立て、1階にカフェを開き、手づくりのケーキをみんなに食べてもらうのが夢です。今はお母さんと一緒にケーキやクッキーなどいろいろなお菓子を作って勉強しています。

## 編集後記

▼わたしは、中学3年生の子どもを持つ親です。初めての高校受験、わたしは、何をどうしたらよいかわからず、とりあえず「あなたは受験生だから勉強しなさい!!」と毎日声を張り上げて、子どもに嫌がられています。夏休みとれだけ頑張ったか合否が決まるといいます。受験生のみなさん、夏休み返上で勉強していると思いますが、これから受験まで健康管理に注意して、志望校目指し頑張ってください。我が子よあなたはこの夏どうのりきる? (一)

▼「おなかいっぱいご飯が食べたい。家族に会いたい。」そんな今では当たり前のことが戦争時には叶わなかった。祖父は生前、戦争で青島(中国)へ行っていたころの話をしてくれたことがあります。耳を塞ぐような話ではなく、現地の子どもたちに助けられた話でした。今考えると、優しい祖父の気遣いだったのかもしれない。今回戦争体験の話聞いて感じたことは、共通して体験者が当時のことを鮮明に覚えているということ。それだけ衝撃的な時代だったのでしょう。わたしは戦争があったことを忘れてはいけないと強く感じると共に、いつまでも平和が続くよう祈りました。(一)